

「義務教育学校における特別支援教育に関する 校内体制の構築」

—特別支援教育コーディネーターの役割を中心として—

学籍番号 229107
氏名 河村 隆史
主指導教員 陸奥田維彦
副指導教員 寺嶋 浩介

1. 背景と目的

事例校は、2022年4月にY区西部地域にある4つの小学校（A小学校、B小学校、C小学校、D小学校）と1つの中学校（E中学校）を統合し、X市で初となる義務教育学校として開校した。2022年度の「運営に関する計画」には、「昨年までの課題を見ても、開校前の各学校における課題は多岐にわたり、新校としての課題は特定するには厳しい現状がある」と示され、特別支援教育に関しても同様である。

そこで、本教育実践研究の目的を、義務教育学校が抱える特別支援教育に関する現状や課題を明確にし、校内体制を今後どのように構築すべきかについて、特別支援教育コーディネーターの役割を中心に検討を行うこととした。

具体的には、事例校における特別支援教育の推進し、校内体制の形式的な整備を行うだけでなく、校内委員会の運営や特別支援教育コーディネーターの活用、校内での連携、関係機関との連携、教職員の特別支援教育への理解等の質的な充実を図り、機能的にするためには、どのような校内体制の構築が必要なのかを報告者の特別支援教育コーディネーターの立場から研究を進める。

2. 研究の方法

〈実践Ⅰ〉特別支援教育に関する実態把握

【目的】開校前の各学校と事例校の特別支援教育に関する校内体制について把握し、比較する。また、事例校の特別支援教育に関する実態を把握し、事例校の特別支援教育に関する課題を抽出することを目的とした。

【方法】聞き取り調査、アンケート調査、ワーキンググループによる分析・検討

【結果・考察】聞き取り調査とアンケート調査の結果をワーキンググループで分析・検討し、以下の4つを事例校の課題として考えられることを明らかにした。

- ①「約半数の教員が特別支援教育の経験がなく、
専門知識や支援方法などの専門性が低いこと」
- ②「学校全体で、特別支援教育に取り組めていない可能性が高いこと」
- ③「特別支援教育についての方針や共通理解が得られていない可能性が高いこと」
- ④「特別支援教育コーディネーターが形骸化し、本来の機能を果たしていないこと」

〈実践Ⅱ〉特別支援教育に関する課題改善への取組

【取組内容】

- ①ワーキンググループから管理職への改善策の提案
4つの課題についての改善策の1つとして、管理職に対して「事例校における特別支援教育について」の提案
- ②特別支援教育に関わる校務運営の変更
年度当初に新旧特別支援学級担当教員の引継ぎの実施、校内委員会である「特別支援教育委員会」の開催日の確保
- ③教職員への研修の実施
職員会議において、「特別支援教育に関する研修会」を計3回実施
- ④保護者説明会の開催
事例校で初めてとなる保護者対象の「特別支援教育に関する説明会」を実施

〈実践Ⅲ〉課題改善への取り組みについての検証

【目的】課題改善への取り組み（教職員への研修、保護者説明会、校内体制構築のための取り組み）がどのような影響や効果があったかを把握することを目的とした。

【方法】質問紙によるアンケート調査

【結果・考察】教職員への研修について、「今回の研修で新たな学びや発見はありましたか？」であるの回答が86.5%、「今回の研修の内容は有意義なものでしたか？」及び、「今後も特別支援教育に関する研修は必要と思いますか？」で肯定的な回答が100%であることから、教職員全体で実施した研修が特別支援教育の理解、また学校全体の特別支援教育の推進につながる有意義なものになっていたと考えられる。保護者説明会についても、「今回の説明会の内容は有意義なものでしたか？」では肯定的な回答が96.2%、「今後も特別支援教育に関する説明会は必要と思いますか？」の肯定的な回答は100%であることから、非常に有意義なものであり、今後も継続する必要があると考える。また、保護者の多くが情報共有・連携を望んでいることも明らかとなった。

3. 総合考察

本研究では、特別支援教育コーディネーターの役割を中心に、事例校の特別支援教育に関する現状や課題から実践を行ってきた。今回の実践が事例校の特別支援教育が抱える4つの課題について、一定の効果が確認できた。一方で、教職員、保護者ともに特別支援教育の充実度に関しては否定的な意見が多かったことから、今後さらに実践、評価、修正を行いながら、よりよい実践内容にしていく必要があることも確認できた。事例校における特別支援教育に関する校内体制の構築は出来つつあるが、今後も実践を継続し、校内体制が形骸化することなく、機能的なものにしていくことが重要である。そのためにも、特別支援教育コーディネーターである報告者が特別支援教育のキーパーソンとして、「チーム学校」での取り組みを実践し、すべての子どもたちが安全安心な学校生活を過ごすことができるために、仕事に高い意識と責任を持ち、さらに学びを続けていきたいと考える。